



やるき
ほんき き さ き

木佐木

神奈川県議員
日本共産党

2024.4.3
木佐木ただまさ news
発行：党横浜北東地区委員会
横浜市鶴見区潮田 3-147-6
TEL：045-511-1021

Profile
▶1984年山口県出身
▶鶴見区馬場在住
▶神奈川大学法学部卒
▶よこはま健康友の会会長
▶横浜東民商顧問

横浜花博の無謀な想定は見直しを



2024年度議案の反対討論に立つ井坂新哉 県議

3月25日、最終日を迎えた県議会で2024年度議案の採決が行われ、井坂新哉県議(横須賀市選出)が反対討論に立ちました。今回は予算に反対する理由のうち横浜の花博に関連した部分をご紹介します。

過大な入場者数に基づく

花博推進は見直しを

横浜で開催される国際園芸博覧会についてです。

私たちは、国際園芸博覧会のそもそもの意義は大切なことと思っておりますが、半年で総入場者数 1500万人、有料入場者数 1000万人という見込みは過大であり、建設費や運営費を含め規模の縮小が必要と考えています。

特に運営費の360億円は、主に入場料などの収入と企業の寄付で賄うとされていますが、これまで実施されている園芸博の入場者数をみると、現在開催されているカタルーでの園芸博の入場者数の目標は300万人。2000年代に入ってから開かれた7回の園芸

博の内、500万人未満が6回、900万人超は北京の1回のみとなっており、いかに横浜の1000万人の想定が大きいかがわかつて思います。

また、会場への交通問題も重大で、目標人数が会場に来るとなれば、周辺道路の混雑は今まで以上のものとなり、大きな混乱を招くことになりかねません。このような、過大な設定自体を見直す必要がありますが、(県の)答弁では、来場者数の見直しは必要ないとのことでした。

赤字の際の責任の所在や

財政負担はいまだ示されていない

また、質問趣意書では2008年に開催されたY150・横浜開港祭において横浜市が大幅な赤字補填をしたことを例に出し、万が一赤字となった時の県民負担等について質問しましたが、赤字にならないように取り組むとだけの答弁で、誰が最終の責任を取るのかなどについて全く言及をしていません。

このような状況で、国際園芸博覧会を推進することに大きな懸念を持つとともに規模の縮小を含めた大幅な見直しが必要と思います。



花博 HP より

